

## JSPS Information

- ◇日本惑星科学会秋期講演会のお知らせ
- ◇ニュースレターのE-mail化について
- ◇E-mail addressの登録について
- ◇ニュースレターへの投稿について
- ◇日本惑星科学会入会案内
- ◇学会誌購読申込み
- ◇日本惑星科学会第10回運営委員会議事録
- ◇日本惑星科学会第2回総会議事録
- ◇第2期役員名簿
- ◇賛助会員名簿

### ◇日本惑星科学会秋期講演会のお知らせ

今秋も第2回の本会独自の講演会をもつこととなりました。多くの会員に参加いただき、有意義な討論が展開されるよう望んでいます。特に若い会員の方々は、その存在をアピールする絶好の場として学会講演会に積極的に参加され、活発な討論を期待しています。

秋期講演会の開催要領は以下の通りです。

日 時：1994年10月3日（月）、4日（火）

場 所：名古屋大学理学部物理学教室

講演時間（予定）：12分+3分（討論）

参加料（予定）：会員1000円、非会員2000円。

登壇資格：著者に本会会員を含むこと

講演申込み方法：下記の書式に従った講演概要、および宛先を書いた（定形長3号：定形封筒の大きいサイズ）返信用封筒を郵送して下さい。封筒

は学術情報センターデータベース登録用紙を著者に送るためのものです。

申込み先：宇宙科学研究所惑星研究系 藤原 顕 方「日本惑星科学会講演申し込み」

申込み期限：1994年8月15日必着

書式：著者の作成したA4原稿をそのまま縮小して、オフセット印刷します。A4版上でのレイアウトは図（次ページ）の通りです。

a 1. 講演題目 [英文タイトルも]

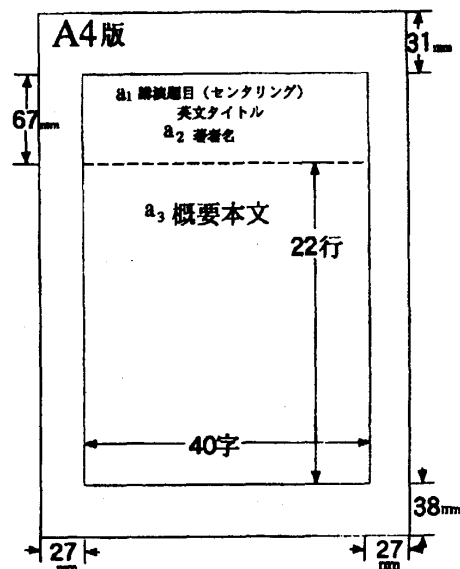
a 2. 著者名 [彗星太郎・金星宙子（名大理）、太陽星美（宇宙研）の形で、また発表者には印をつける]

a 3. 概要 [1行40文字、22行以内。図表も行内におさめる]

別紙に主著者の連絡先（住所・電話・FAX・電

子メール) と、口頭講演・ポスター講演のどちらかを希望するかを書いて同封して下さい。

なお講演会のプログラムは9月初旬発行の遊星人 Vol.3-3に掲載するとともに、電子メールのニュースレターで送ります。また、講演予稿集は講演会当日受付にて販売いたします。



※A4版上でのレイアウト

## ◇ニュースレターのE-mail化について

日本惑星科学会事務局

1993年度には学会誌「遊・星・人」発行の間を埋めるように、7回のニュースレターを編集・発行してきました。本学会のvividな動きを迅速に伝えて欲しい、広く各種情報を流して欲しいとの学会員の声に答えるためのものでした。しかしニュースレターの編集・発送に伴う事務局の労務（ひいては人件費）及び郵送料は、小さな規模の本学会にとってかなりの財政負担となっています。例えば、ニュースレター郵送料だけでも財政規模の10%に及んでいます。

このような状況を考え、今春の地球惑星科学関連学会合同大会時に開催されました本学会第10

回運営委員会及び第2回総会におきまして、「財政上の理由から、これまでの印刷物によるニュースレターの配布を廃止し、それに代わってE-mailにより配布する」ことになりました。一部の会員の皆様にはご不便をおかけすることになりますが、事情をご賢察の上ご理解いただくようお願いいたします。なお、選挙公報などはこれまで通り印刷された事務局報として随時おとどけます。

当面の間、E-mail名簿管理、ニュースレター配布は高木靖彦運営委員に、また、ニュース編集は榎森啓元会員（東京工大）に支援していただくことになっています。

## ◇E-mail addressの登録について

E-mailによるニュースレターは、高木委員の管理する計算機に登録された会員のE-mail addressに従って配布されることとなります。ニュースレター配布希望の方は各自のaddressをあらかじめ、

member-address@jsps.toho-jc.ac.jp

にE-mailでお知らせ下さるようお願いいたします。当面addressの登録は手動で行なう予定ですので、ニュースレター各号の発行直前に送られて来た

addressの登録・変更は、その号の配送には反映されず、次の号からという場合があることを予めお断りしておきます。

なお、新たにE-mail addressを取得するなど技術的な面については不明な点がありましたら、学会誌「遊・星・人」Vol.3, No.2に掲載の高木運営委員の記事を参考にしてください。

## ◇ニュースレターへの投稿について

ニュースレターの発行は毎月15日前後に編集発行します。ニュースレターに記事を投稿したい方は毎月10日までにE-mailにより原稿を送付して下さい。宛先は、

JSPSNEWS@geo.titech.ac.jp

です。事務局でレイアウトを多少変更するなど簡易編集はしますが、基本的には投稿原稿そのままの形で掲載されることになります。

なお、E-mailとしての有効性を守るため、記事

はできるだけ簡潔なものにしていただくようお願いいたします。また、内容によって事務局の判断で掲載不可とさせていただく場合があります。あらかじめご承知おき下さい。また、これまでと同様ニュースレターで流された記事は事務局の判断で学会誌「遊・星・人」に転載することがあります。

## ◇日本惑星科学会入会案内

「日本惑星科学会」は平成4年4月に発足しました。新学会の設立目的は、まず惑星科学それ自体の振興にあります。旧来分野の垣根を取り払い、相互理解や情報交換を積極的に進め、また、異なった手法、異なった対象の研究を集約し総合的な視点にたつて惑星科学を推進することが第一の目的です。また、本格的な惑星探査の時代を迎え、日本の惑星科学界全体として直接、間接に探査計画を支え、さらには将来の探査計画を立案すべく、新学会がその組織化をはかることも重要です。同時に、惑星科学研究の国際的な共同計画に日本の応分の負担と協力が求められている現在、新学会が力量を高め、国際的な窓口としての役割も果たすことになると思われます。更には、惑星科学の成果を社会に還元したり、また、中・高校生など若い人材を惑星科学に勧誘するための広報活動も新学会の重要な責務です。

このような日本惑星科学会設立の主旨にご賛同くださり、今後の惑星科学の発展をともに担う広範な分野の方々の入会をお待ちしています(会則は創刊号に掲載されています。また第2期役員名簿

は本誌143ページに掲載されています)。

入会の方法は下記の通りです。

年会費：6,000円(但し、学生会員は4,000円)

入会手続：

(a)入会申込書(本誌巻末に綴込まれています)にご記入の上、事務局にご送付下さい。

(b)運営委員会において入会が認められますと、事務局より入会受理のお手紙を差し上げます。

(c)その後、(財)日本学会事務センターより年会費請求書が送付されます。請求書に従って年会費をお振り込み願います。なお、入会受理より年会費請求まで遅延があります(最大2ヶ月程度)が、会員としての権利は入会受理と共に発生します。

事務局：

〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1

東京工業大学 理学部 地学内

TEL：03-3720-9885；FAX：03-3727-4662

〒113 東京都文京区本駒込5-16-9

(財)日本学会事務センター

TEL：03-5814-5801；FAX：03-5814-5820

## ◇学会誌購読申込み

本誌「遊・星・人」は会員外の方でも1号あたり1,750円(含送料)で購読することができます。購読希望の方は、本誌巻末の「学会誌購入申込カード」に所定の事項をご記入の上、事務局にお申し込み下さい。なお、バックナンバーについては創刊号から購読できますが、発行予定のものについ

ては同年内発行のものまで(第1号より第4号まで)となっておりますのでご注意下さい。

学会事務局が購読申込書を受け取り次第、請求書(他必要書類)、バックナンバー及び最新刊会誌を送付します。詳細は事務局までお問い合わせ下さい。

## ◇日本惑星科学会第10回運営委員会議事録

開催日時：1994年3月21日(月) 18:00～21:20

開催場所：東北大学教養部

出席者：中沢・水谷・大谷・佐々木・杉浦・高木・土山・寺沢・福岡・藤原・向井・村江・矢内・山本(以上出席者)、荒川・川口・北村・留岡・林・藤井・柳川(以上委任状)、香内(オブザーバー)

### 1. 報告

#### (1) 入会状況

中沢会長より3月8日時点での学会員の現況が以下の通り報告された。会員内訳は、

一般会員：297 学生会員：107 賛助会員：12

であり、9月以来一般会員15名の入会があった。会員数は僅かながら延びているものの、延び率は急激に落ちている。また、賛助会員数は昨年に比べ2増であるが、賛助会費は激減している。

#### (2) 日本学術会議会員候補者等選挙結果について

標記結果について中沢会長および藤原選挙管理委員会委員長より以下の通り報告があった。本学会が日本学術会議学術研究団体として登録されたことに伴い、日本学術会議会員候補2名、同推薦人1名及びその予備者1名を届け出ることができるようになった。1993年12月24日には、総務専門委員会の下に選挙管理委員会を設け、1994年1月7日～20日にわたり全会員による日本学術会議会員候補者、同推薦人及びその予備者の選挙を行

った。1月21日、選挙管理委員会で開票の結果(前号参照)、会員候補者としては中沢清、水谷仁両会員を、同推薦人としては向井正会員を決めた。また、推薦人予備者については推薦人選挙第2位者が2名いたため、選挙管理委員会で抽選を行い、大谷栄治会員を決めた。

#### (3) 学会誌の学術刊行物の指定について

標記につき、藤原総務専門委員長より現状報告があった。かねてより学会誌郵送料の軽減を目指してきたが、本年2月末、郵政省に対して学会誌「遊・星・人」の学術刊行物指定の申請を行った。この申請は7月中には認められる予定であり、「遊・星・人」Vol.3, No.3(9月25日発行)より学術刊行物としての郵便料金で送れるようになる。

### 2. 議事

#### (1) 第2回総会の議題整理

##### a) 基調報告

第2回総会での第2期上記活動報告に関する基調報告原案が中沢会長より提示され、一部字句を修正の上、了承された。

##### b) 専門委員会報告

総務専門委員会、編集専門委員会報告原案が各々藤原委員長、向井委員長より示され、原案通り了承された。

##### c) 1993会計年度決算報告

標記決算につき、杉浦財務専門委員会委員長より報告があった。1993会計年度(1993年1月1日

～12月31日)の収入, 支出は以下の通り.

・収入		
会費 (一般)	1,564,100	(#1)
(学生)	336,000	
(賛助)	850,000	
事務局繰越	265,000	(#2)
その他	37,574	
前年度繰越	444,695	
計	3,497,869	

(#1) 100円の端数は海外会員から6,100円振り込まれたため

(#2) 利息, シンポジウム等残金など

・支出		
事務委託費	331,389	
学会費編集発行	1,598,371	
学会誌郵送料	387,403	
講演会開催経費	116,660	
旅費	0	
事務局経費	908,404	
人件費	512,528	
郵送料	195,615	
その他	107,011	
電話代	93,250	
次年度繰越	155,642	
計	3,497,869	

上記報告の中で, 収入, 支出各繰越金の差額である約30万円及び財務専門委員会手持ち伝票分約20万円, 計約50万円が1993会計年度の赤字であること, その主たる原因が大口賛助会員の退会にあること, 学生会員の会費納入率が低いことの指摘があった.

この報告を受け, 収入増支出減をはかるための方策につき種々提案があった. 増収方法としては会員を増やすこと, 学会誌等のバックナンバーを

積極的に売ること, 学会誌の購読者を増やすこと, 学会講演会をプラネタリウム等会場費のかからない所で開催すること, 秋期学会講演会では参加料を徴収することなどが提案された. また, 支出減の方法として, 学会事務センターと事務局の人件費が重複していることから, センターへの事務委託を止めたらどうかとの提案があった. このうち, 秋期学会講演会の参加料の徴収については総会に諮ることとし, 他については財務専門委員会で抜本的に検討願うこととした.

#### d) 第2期下期基本方針案

第2回総会における標記報告原案が中澤会長より示され, 今秋の学会講演会において1,000円前後の参加料を徴収することを原案に追加し, 了承した.

#### e) 第2期下期予算案

杉浦財務専門委員長より, 1994会計年度の予算原案が以下の通り示された. この案には上述の1993会計年度決算に係わる議論が勧案されていないが, とりあえず暫定的な案として第2回総会に提案することとした.

・収入		
会費 (一般)	1,700,000	
(学生)	400,000	
(賛助)	1,400,000	(#1)
事務局収入	0	
その他	245,000	(#2)
前年度繰越	155,642	
計	3,900,642	

・支出		
事務委託費	500,000	(#3)
学会誌編集発行	1,400,000	
学会誌郵送料	450,000	
講演会開催経費	120,000	
旅費	0	

事務局経費	1,280,000
人件費	880,000 (#4)
郵送料	250,000
その他	100,000

を受けた。申し出の骨子は

- 1.協同編集を表明した学会（協力学会）間の合意が成立すれば，JGGの協同編集を開始する
- 2.協同編集効果が上がるよう，3年以内にJG

昭子（宇宙研）両会員に引きついでらうようお願いすることとした。

なお、運営委員会終了後、継続性を重視し少なくとも1名は留任して欲しい旨地球惑星関連学会連絡会より強い要請があり、水谷副会長、山本委員とも相談の上、山本委員は留任とし、中川委員にかわって阿部会員に学会等連合部会委員をお願いすることとした。

#### (5) 会則、細則の改正について

これまで丸2年間、本学会を運営してみて学会会則、細則に正確さを欠く表現があることが分かり、また、今回の日本学術会議会員候補推薦や今後予想される研連委員の推薦など本来に規定されていない点もあることから、本格的な会則、細則の見直しに入りたい旨中澤会長から提案があっ

た。議論の結果、ここ2～3ヶ月の間に総務専門委員会を中心に抜本的な見直しを行い、会則等改正原案を作成すること、秋期学会講演会開催時に総会を開き会則改正を審議することとなった。

#### (6) 次期学会講演会開催について

94年度秋期学会講演会は名古屋大学理学部にて開催することになっていたが、日程を調整した結果、以下の要領で開催することとなった。

開催場所：名古屋大学理学部物理学教室

開催日：1994年10月3日（月）～4日（火）

また、95地球惑星関連学会合同大会は

開催場所：日本大学文理学部

開催日：1995年3月27日（月）～30日（木）の要領で開催される。

## ◇日本惑星科学会第2回総会議事録

開催日時：1994年3月22日

開催場所：東北大学教養部

出席者数：144名（内委任状78名）

### 1. 開会宣言

総会成立を確認の上、藤原総務専門委員長が開会を宣言し、その後大谷栄治会員を議長に、香内晃会員を書記に選んだ。

### 2. 議事

#### (1) 第2期上期活動報告

まず、中沢会長より本学会の第2期上期活動状況につき以下のとおり報告があった。

1993年6月本学会は、日本学術会議登録学術研究団体として認められ、それに伴い本年1月には日本学術会議会員候補者等の推薦選挙が実施された。また、会員数は3月8日時点で400名を超え、発足以来2年足らずで学会としての形が整ったこ

とになる。他方、昨秋には本学会固有の秋期学会講演会を大阪大学で開催し、春の地球惑星関連学会合同大会としての学会講演会と合わせ、質的にも一人前の学会として成長した。しかし、学会運営としては決して満足できるものではない。社会的な不況を反映して賛助会費が減少し、学会財政は危機的な状況にある。今年から郵便料金が値上がりしたこともあり、本年度7号を数えたニューズレターの編集発行でさえ大きな財政負担となった。また、事務局でのアルバイト雇い上げを抑制したため、事務局の労務負担もかなりなものとなった。今後、学会財政について抜本的に見直す必要がある。

次いで、藤原委員長による総務専門委員会報告、向井委員長による編集専門委員会報告があった。引き続き総会議案書をもとに、杉浦委員長より1993会計年度の決算報告があり（第10回運営委員会議事録参照）、学会の財政が極めて厳しい状態にあること、未だ借入金返済の見通しが立っていないことなどが明らかにされた。さらに、中野

武宣, 松田准一両監事による会計監査報告が松田監事よりあり, 昨年度に引き続き「概ね健全と認め」られた。

若干の質疑の後, 拍手によって採決が行われ, 活動報告は承認された。

## (2) 第2期下期活動方針

前日(3月21日)開催の第10回運営委員会での討議をもとに, 中沢会長より以下の通り1994年度活動方針の提案があった。

a) 合同大会への参加は定着し, 本学会固有の秋期学会講演会も始まり, また, 学会誌の編集発行も比較的スムーズに行われている。今後は, これら講演会や学会誌の内容の充実を図りたい。

b) 新分野である惑星科学は研究教育基盤が脆弱で, 基盤整備のため本学会として相応の役割を果たしていく必要がある。まずは, 本年度で終了する文部省科学研究費時限細目「惑星科学」の延長, 恒常化に向け, 然るべき働きかけを行っていきたい。また, 将来計画専門委員会を中心に研究教育基盤整備向け, 提言書等をまとめて行きたい。

c) 地球惑星科学関連学会における連合化が提唱されて久しい。研究自体が「無境界化」していること, 各学会の運営事務負担が多く, 研究者に重くのしかかっていることなどから, 連合化について積極的に検討していく必要がある。また, 欧文ジャーナルの協同編集も提案されている折から, 本学会としても他学会との関連について本格的に取り組む段階にきている。

d) 学会財政の立て直しのため, 歳入増歳出減両者を真剣に追求しなければならない。賛助会員に依存する学会財政は不安定であり, 正会員を大幅に増やすことにより財政の安定化を図ることが重要である。なお, 関連した事項として, 会費納入方法を銀行振り込みに替えることも検討していきたい。また, 秋期学会講演会では運営経費をまかなうため, 今期より参加者に参加料(1,000円程度)を負担願わなければならない。更に, 現在事

務局にかかる負担は大きく, ひいては事務局員雇い上げなど, 財政圧迫へと波及している。今後事務局の負担を減らすべく, 各専門委員会に事務分担をお願いせねばならない。

e) これまでの学会運営を通じ, 設立当初制定した会則・細則の見直しが必要との認識が高まっている。先般行われた日本学術会議会員候補者推薦投票についての規定は勿論なく, 他にも運営上不都合な点も明らかになっている。総務専門委員会にお願いして, 秋頃までに本格的な会則・細則の見直しを行い, 秋期学会講演会の際には改正したい。

f) 活動報告で述べた通り, ニュースレターの発行は事務局運営, 学会財政圧迫の要因の1つとなっている。今期より, 印刷物郵送によるニュースレターは廃止し, E-mailによる配布形態を取りたい。なお, 選挙広報などはこれまで通り, 事務局報として印刷物として随時発行する。

続いて, 杉浦財務専門委員長より1994会計年度の予算案が提案された(第10回運営委員会議事録参照)。この予算案には秋期学会講演会での参加料徴収やニュースレターのE-mail化が織り込まれていないが, 今後財政問題を抜本的に検討することから, 暫定的なものと理解して欲しい旨, 同委員長より説明があった。

以上説明の後, 第2期下期の活動方針および予算案につき拍手によって採決がおこなわれ, 提案通り, 了承された。

## (3) 今後の学会講演会の開催について

中沢会長より, 本学会'94秋期学会講演会は名古屋大学理学部において10月3日(月)~4日(火)の日程で開催されること, '95合同大会は日本大学文理学部で3月27日(月)~30日(木)の日程で開催されることがきまっている旨報告された。また, 本学会'95秋期学会講演会は北海道大学, あるいは, 九州大学で開催する方向で検討されていることも報告された。



## ◇日本惑星科学会第2期役員名簿

## 会 長

中澤 清 (東工大・理)

## 副会長

武田 弘 (東大・理)

水谷 仁 (宇宙研)

## 監 事

中野 武宣 (天文台)

松田 准一 (阪大・理)

## 運営委員・幹事・財務専門委員長

杉浦 直治 (東大・理)

## 運営委員・幹事・総務専門委員長

藤原 顕 (宇宙研)

## 運営委員・編集専門委員長

向井 正 (神戸大・理)

## 運営委員・将来計画専門委員長

留岡 和重 (神戸大・理)

## 運営委員・対外協力専門委員長

松井 孝典 (東大・理)

## 運営委員

荒川 政彦 (北大・低温研)

大谷 栄治 (東北大・理)

川口淳一郎 (宇宙研)

北村 雅夫 (京大・理)

高木 靖彦 (東邦学園短大)

土山 明 (阪大・理)

寺沢 敏夫 (東大・理)

林 正彦 (天文台)

福岡 孝昭 (学習院大・理)

藤井 直之 (名古屋大・理)

村江 達士 (九大・理)

柳川 弘志 (三菱化成)

矢内 桂三 (極地研)

山本 哲生 (北大・理)

## 運営委員・企画部会長

佐々木 晶 (東大・理)

## 学会連合等部会長

中川 義次 (神戸大・理)

## ◇日本惑星科学会賛助会員名簿

1994年4月25日までに、賛助会員として本学会に御協力下さった団体は下記の通りです。社名等を掲載し、敬意と感謝の意を表します(五十音順)。

(株)大林組

(株)サンディーズ

清水建設(株)宇宙開発室

(株)竹中工務店

日本電気(株)宇宙開発事業部

(株)パスコ

(株)日立製作所

富士重工(株)航空宇宙事業本部

(株)本田技術研究所

(株)三菱重工

(株)三菱プレシジョン

(財)リモートセンシング技術センター